

ときかわお葬式なんでも相談室

# おじぞうさんの独り言

2018年 平成30年 迎春号 Vol.37

## 発行

総合葬祭・想々ホール

合資会社 ときかわ

静岡県三島市中央町3-24

電話 055-975-0182

fax 055-973-3011

編集：日本葬祭アカデミー

## 鬼が来る

春の訪れは、『鬼』の来訪によって告げられます。秋田県男鹿半島の「なまはげ」は立春のころに行われます。

### ◆『鬼』のしぐさ

なまはげ祭りの特徴は、集落ごとに伝統的な鬼の面を受け継いでいることです。その表情が怖くもあり、また同時にユーモラスです。

夜、里宮である神社を中心に氏子の家々を練り歩きます。障子やふすまを揺さぶり、反閉（へんぱい）をします。この「反閉」というのが、わらじ履きのまま上がり込んだ部屋でシコを踏むようなしぐさをすることです。ナマハゲの場合、「シコを踏む」とは言わず、「カドを踏む」という言い方をします。一種の魔の封じ込めや鎮めなどの呪術的なしぐさといわれています。

神がかりした「わざおぎ」が、地べたを踏みつける、どんだんたたくなど、いわゆる「ダダ」を踏むという所作は、やがて神楽のような芸能として、舞踊化していきます。この「わざおぎ」のことを漢字であてはめると「俳優」。『日本書紀』に出てくるような古い言葉です。



歌舞伎の「六方を踏む」所作もその象徴的な伝承形式。『勸進帳』弁慶の「飛び六方」などが有名な見せ場です。この足踏みを土俵という境界の中で、裸で舞うようにすることを「素舞」（すまひ）といひ、後に「すもう」という言葉に変化します。力強いシコは、荒魂（あらみたま）の鎮めとなり、そのあとにはおまじないの散楽（さんかく）として弓取り式を演じます。テレビでの大相撲中継を違った角度から見てください。力士たちは土俵に上がるとき、塩をまき、口を注いで、柏手を打つ。これは神社参拝と似ていますね。しかも一番強い力士は「横綱」です。あろうことか自分自身がご神体で、体にしめ縄を巻いています。



### ◆春と『鬼』

この横綱の神がかり的な力でシコを踏めば、それは大きな鎮魂になるでしょう。結びの一番が終わるとすぐに弓取り式が行われます。役割の力士が、土俵の上で弓を手にしているいろいろな所作を行い、最期に弓を立て、そして掲げ、一礼をして土俵を去ります。お分かりになりましたか？ 弓を立てるとどのような字になるでしょう。それが「吊」です。つまり鎮魂された魂の安寧を祈念しているわけです。

三月に入ると東大寺二月堂の「お水取り」が代表的な春の風物詩です。夜、火のついた大きな松明を火の粉を散らしながらお堂に駆け上がるスリリングで荒っぽい行事が有名です。これを「鬼走り」といい、足音を響かせて先導します。正式には「修二会」といわれる春行事。また「修正鬼会」は、国東半島の六郷満山、札所寺院を中心に行われてきた春を迎える伝統的な行事です。

恒例！ ときかわエンディング生活塾 定期連続セミナー 第18回目開催のお知らせ

2/22

今回のテーマ「お葬式の衣」(衣・食・住から)

～しきたりと現代葬儀への警鐘！伝統的な慣習のほんとうの意味を知る～

講師 日本葬祭アカデミー教務研究室 二村祐輔氏(葬祭コメンテーター)

この定番スタイルの解明も



死装束とは何か？  
なぜ旅支度？  
最後はこれを着せてあげたい！…素朴な疑問や要望を楽しく解明します！恒例のエンディングに関する文化講座ご質問にも解答！

日時 2018年 2月22日(木) 10:00～11:30

会場 三島商工会議所 4階 会議室

参加費 無料 (原則申込み・当日受け付けも可能)

◆参加特典・マイ・エンディングノート贈呈(市価1,400円)

ときかわ  
お葬式なんでも相談室

セミナーお申込みお問い合わせはどうぞこちら 電話 055-975-0182

第17回

心にしみる折々のしきたり  
シリーズ 葬祭学入門

ヒトカタ（人形）



桃の節句は子供の成長を祝う、みやびな季節行事です。現代のような貴人形の段飾りが一般庶民に普及したのは、江戸時代。裕福な商人たちから広まったといわれています。

日本では、生活における人形の位置づけが、単に装飾品や子供の遊具としてだけではなく、人形の読み方を「ヒトカタ」と変えるだけで、その言葉には古い意味合いが隠されています。

「ヒトカタ」には三つの役割があります。ひとつは丑の刻参りに代表される藁人形のような呪具の役割。

また形代（かたしろ）として、鎮めや祈りを捧げる対象で、これは主に仏像などがそれに当たります。

もう一つは「流しびな」のように、ヒトカタを「破棄」することで、禍々（まがまが）しい罪穢れをヒトカタに負わせて、自身は解除させるという「転嫁」の祓いという役割です。

流しびなは、もとより子供の育みや病氣、厄災を事前に取り除こうとする予防的なおまじないです。

ひな祭りの起源をそこに説くこともあります。



シリーズ ワンポイント お葬式や供養の実務知識

30

【家族信託を考える】

最近「家族信託」が見直されてきました。2006年の信託法の改正で、親が資産を子どもに託す場合、子を受託者として契約を結び、行政書士などに手数料を支払って依頼、手続きを行うことができます。大きなメリットは、認知症に備える後見を第三者ではなく、子供に任せられるということです。（後見代用信託）

通常、判断能力の喪失があれば、不動産などの売買が不可能で、預貯金の出し入れも困難になります。資産運用や相続税準備などの資金あらかじめ用意しておくためにも、元気なうちに子どもを受託者として契約を結んでおけば、もし将来、判断力が低下しても、生活費などを、代わりに引き出し、支出することもできます。また契約内容によっては、不動産を処分することもできます。一般的な成年後見制度の利用もできますが、あくまで本人の財産管理のために、この「家族信託」もご一考の案件です。

但し、子どもの誰に託すかでもめないことも必要です。また税制上の優遇があるわけではありません。遺言書のようなわずらわしさが無い分がメリットといえます。



お地蔵さんの独り言



雪が多かった冬も終わり、いよいよ、春がやってきました。皆さん、お元気ですか？ 私も笠地蔵みたいです。少し雪に埋もれてしまいました。やつと春らしくなつたので季節に合わせて衣替えをしました。ただ毛糸の帽子だけは、もう少しね。私たちがお地蔵さんの定番スタイルといえ、「よだれかけ」のような前掛けですね。それも赤いやつ。もっとも私たちが子供の代表みたいなもので、赤から「赤ちゃん」を象徴する衣装を着せられます。本来は子供の使っていたものを奉納し、その子供の「匂い」を私たちに覚えてもらうというように民間信仰もあつたようですよ。また赤い色は魔除けということもあるのですが、お地蔵さんに魔除けは必要ありません。一応私たちが菩薩です。ほんとうは強い「法力」を持つています。だから観音様と並んで私たちの人気と好感度は千年たっても変わりません。それで今回は古くからの友達を紹介しましょう。

安芸の宮島のニッコリ地蔵です

僕は青森の津軽出身です

お昼寝中 起こさないで～

いろいろな衣装を身に付けていますが、是非どなたか私にカラフルなよだれかけを作ってください。待ってます！

信頼できる「PIP認証」

安心して葬儀の「事前相談」をするためには、個人や世帯の情報を守秘管理する理念を表明している葬儀社を選ぶことが大切です。信頼できる葬儀社を選ぶ際の目安の一つに、葬祭情報管理適格事業所の証しとなる「PIP（プライベート・インフォメーション・プロテクト）認証」の取得などがあります。



いつでもお気軽にご相談ください。心づもりは大切な安心です

もしもの時は 地元葬儀社フリーダイヤル

ときかわ 0120-100-182

◆安心は、信頼の事前相談から

現代的葬儀社選択の要は「個人情報の守秘管理」

◆告知 今年も6月16日三島商工会議所で「私の創作・手作り展」を開催。皆様の作品をご展示ください！さあ今からご準備してくださいね。